



令和6年度 学校経営計画

1 学校教育目標

勤労・自治・向上の校訓のもと、知・徳・体の調和のとれた人間の育成と社会の有為な形成者の育成を教育目標とする。教育方針は次のとおりである。

- (1) 健康な心身を育成し、情操豊かな人間性を養う。
- (2) 責任を重んじ、自主自律の精神と社会性を養う。
- (3) 思考力と判断力を培い、実行力を養う。

2 学校の特徴

- (1) 本校の歴史は、大正9年に富山県中新農業学校として開校し、幾多の変遷を経て平成9年に総合学科が設置され、平成31年度に100周年記念式典を挙行了た。
- (2) 教育課程は2年次から生徒の進路や興味・関心に応じて6分野（人文国際、自然科学、グリーン、スポーツ科学、福祉健康、情報ビジネス）に分かれ、進路実現に向け少人数学習を展開している。
- (3) 進路先は例年、就職35%～40%程度、専門学校35%～40%程度、短大・四年制大学20%～25%程度の割合で構成される。
- (4) 生徒会に所属する生徒は48名と多く、地域ボランティアに参加する生徒の登録者数は100名を超えており、各地の行事に積極的に参加する生徒が多い。
- (5) 特色ある部活動として、ボクシング、空手道、ダンス、ウェイトリフティング、弓道、などがあり、全国大会で活躍することを目標に活発に活動している。

3 学校の現状と課題

(1) 現状

- ① 基本的な生活習慣が確立されるよう生徒指導は全職員で取り組んでいる。学校の雰囲気は全体的に落ち着いているものの、粘り強い指導が必要な生徒もいる。
- ② 学校生活の目標が見つからず卒業後の進路がイメージできない生徒がいる。そのため、キャリア教育の一環として、上市町や上市町にある事業所と連携した上市高校職業プログラム「職業を知る会」「職場見学」「インターンシップ」に取り組み職業観を養っている。
- ③ 地域と連携し多岐にわたる団体との活動やボランティアなど、さまざまな活動を通じて社会貢献活動に参加している。
- ④ 教室にインターネット環境とプロジェクターを設置しICT教育が推進できる環境が整った。県から貸与されたタブレットPCを活用しデジタル教科書など生徒が理解しやすく興味をもてる授業に取り組んでいる。

(2) 課題

- ① 基本的な生活習慣の確立には家庭の協力が不可欠で、学校と保護者が連携し規範意識が高まるような取り組みが必要である。
- ② キャリア教育は一定の成果があるものの、生徒の職業観を育成するには生徒が主体となって社会にチャレンジできる機会を作っていく必要がある。
- ③ 学校行事や部活動、ボランティア活動、課題研究等を通じて、物事に進んで取り組む力（主体性）や現状を分析し目的や課題を明らかにする力（課題発見力）など必要なコミュニケーション能力を向上させていく必要がある。
- ④ 効果的な進路指導を行うために、教員の進学や就職に関する知識を高める必要がある。また、基礎学力を向上させるには生徒の理解度の把握と対策が必要であり、基礎学力テストなどに関する指導者の分析力を高め、面接や教科指導を通して生徒へ還元していく必要がある。

4 学校教育計画

項 目		目 標・方 針 及 び 計 画	
(1)	校務運営	目標	①学校教育目標や教育計画に沿った校務分掌組織により、全教職員の共通理解を図り機能的・能率的な校務を運営する。
		計画	①校務運営委員会では運営方針の共通理解と各部・教科学年間の密接な連携による情報の共有化に努める。 ②様々な教育活動において、教育目標と分担業務との関連性の自覚を促し、教職員一人ひとりが意欲的に業務を遂行する意識を高める。
(2)	教育課程	目標	①一人ひとりが基礎学力を身に付け、自分の進路や適性に応じて幅広い選択科目の中から、自分で科目を選択し学べる教育課程を編成する。 ②新学習指導要領を踏まえ、社会と連携・協働し、新しい時代に求められる資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」を実現する。
		計画	①教育課程委員会で、以下の2つの観点で教育課程を検討する。 ・生徒の学力や適性、進路希望等を把握し、実態に即した教育課程になっているか。 ・総合選択科目において、分野の特徴を生かした教育課程になっているか。 ②科目選択説明会や担任との面談、決定までの日程など、生徒が適切に科目を選択できるような、より良い仕組みを検討する。 ③生徒の実態を踏まえつつ、新しい時代に求められる資質・能力や、社会との連携・協働について検討し、本校の魅力を高める。
(3)	生徒指導 重点1	目標	①基本的な生活習慣の確立を図る。 ②生徒が社会に必要な礼節を身に付け、思いやりをもって行動できる生徒を育成し、地域社会に貢献する活動を支援する。
		計画	①遅刻防止指導 ②問題行動の未然防止、早期対応 ③挨拶、身だしなみ、公共マナー指導 ④携帯・スマートフォンの使用方法に関する指導 ⑤講話（交通安全、携帯・スマートフォン、制服着こなし、心とからだの健康、防止薬物乱用防止など） ⑥玄関前指導、校外、校内巡視 ⑦さわやか委員会が実施するさわやか運動、クリーン活動を支援する。
(4)	教科指導 重点2	目標	①生徒が主体的に学び直しを行い、基礎学力の確実な定着を図る。 ②教員が生徒の実態を踏まえ、授業に学び直しを組み入れ、基礎学力の確実な定着を図るとともに生徒が高等学校段階の学習に円滑に移行できるようにする。
		計画	①年間指導計画に「学び直し」を位置づけ、生徒が達成感を感じながら「学び直し」が行えるように、計画的に実施する。 ②基礎力診断テストを全学年で実施し、義務教育範囲の定着状況等を確認する。また、その結果をもとに各教科で話し合い、授業改善につなげる。
(5)	進路指導 重点3	目標	①生徒の主体的な進路の実現を支援する。 ②キャリア教育を推進する。 ③保護者との連携等支援体制を確立する。
		計画	①総合的な探究の時間で小論文・作文力を育成する。 ②インターンシップ・職場見学等進路行事への参加をすすめる。 ③各学年、進路希望に応じた面接指導の充実を図り、保護者会などを通じて協力体制を整える。 ④奨学金制度について保護者を含め1年次から説明を行う。
(6)	特別活動 重点4	目標	①行事や部活動の目的を理解させ、各自の役割を遂行する態度や人間関係を健全に育成する。 ②放課後活動に積極的に参加する機会を作り、自己達成感を育む。
		計画	①各種行事への主体的な取り組みを支援する。（体育大会・学園祭等） ②校外活動（ボランティア活動、異年齢交流等）の参加数を増やす。 ③部活動への積極的な取り組みを促す。
(7)	保健・美化	目標	①心身の健康に関する意識の向上を図る。 ②環境衛生を良好に保つ取り組みを行う。
		計画	①生徒・教職員の健康状態の確認と学校医と連携した保健管理を図る。 ②清掃担当場所の共通理解を図り、清掃用具の点検、美化週間の計画を行う。

(8)	図書指導	目標	①読書活動を通して、幅広い知識と教養を身に付けさせ、豊かな情操を培わせる。
		計画	①「朝の読書」に取り組む意識を向上させ、読書活動の定着を図る。 ②図書館の環境を改善し、資料の利用の活発化を図る。 ③さまざまな広報活動や教養講座・秋の読書会の運営、校外図書選定など、図書委員の自主的な活動を支援する。
(9)	情報	目標	①情報の管理体制を確立し、情報モラルの育成・向上を図る。 ②外部への情報発信の充実を目指し、迅速で正確な情報伝達に努める。 ③ICT機器を使用し確かな学力を養い、学習の興味・関心を高める。
		計画	①ネットワーク利用に関するガイドライン及び情報管理運用規定の遵守を徹底するとともに意識の向上を促す。 ②教育あんしんメールと連携して、本校のホームページを活用し、効果的な情報発信に努める。 ③ICT機器を活用し、生徒が「主体的に学べる」授業を模索し、パソコン・タブレット端末を使った双方向型授業やWEB授業を目指す。
(10)	教育相談	目標	①生徒が心身ともに健康な状態で高校生活を送れるように、悩みを聞き、一緒に考え、方向性を見いだす。 ②生徒が直面する課題を自らの力で解決できるようにする。
		計画	①日頃からカウンセリングマインドを持って接し、面接週間などを充実させることで、生徒理解及び悩みを抱える生徒の早期発見につなげる。また、生徒の変化に注意し、援助が必要な場合は、学年・保護者との連携を密にし、保健厚生部やスクールカウンセラーとの面談を実施する。 ②随時、ケース会議を設け、個別に支援を必要とする生徒の共通理解を図る。また教職員の教育相談に対する意識及び技術向上のため研修会を設ける。さらに相談室だよりの中で、円滑な人間関係の作り方等を紹介する。
(11)	地域との連携	目標	①学校・家庭・地域間との連携・交流をさらに深める。 ②PTA活動の活性化を図る。 ③ハッピー上市会との交流をさらに深める。
		計画	①保護者や地域の方々に学校教育活動や学校行事の参加を促すとともに、生徒や職員が地域の行事・ボランティア活動に積極的に参加する。 ②PTA行事や研修内容を充実させるとともに、アンケート実施や連絡・案内等を工夫することにより、会員相互の連携を一層密にする。 ③行政や企業等が集まるハッピー上市会と月1回の勉強会に参加していく。
(12)	1学年	目標	①基本的な生活習慣を身に付けさせる。 ②主体的に授業に取り組む姿勢を身に付けさせ、基礎学力の定着を図る。
		計画	①「挨拶を交わす、服装を整える、時間を守る」を重点に学校生活全体を通して細やかな声かけを行い生徒の自立に向け家庭と連携しながら支援する。 ②授業や課題の提示方法を工夫し、生徒が興味関心をもって学習に取り組めるようにする。また個々に応じた学習方法や内容の改善を行う。
	2学年	目標	①将来を見通し、適切な進路選択ができる力を養う。 ②進路実現に向け、自ら課題を見つけ、自主的に行動できるようにする。 ③日々の生活の中で、自己も他者も尊重する心を養う。
計画		①県外進路研修、インターンシップ、オープンキャンパスなどへの参加を通して自らの進路選択の実践につなげる。 ②日頃の学習、生活態度、定期考査、模試・検定などの全てが、進路実現につながっている意識付けを行う。 ③挨拶、服装、時間厳守、清掃といった規範意識と思いやりが、自他の尊重に結びついているということに気づけるよう指導する。	
3学年	目標	①進路目標を明確にして進路実現に向け学習活動や特別活動に取り組ませる。 ②卒業後の生活を見据え、規律と責任ある行動がとれるようにする。	
	計画	①総合的な探究の時間などを通して進路選択の視野を広げる。また、きめ細やかな面接指導を行って目標を具体化させ、主体的及び能動的に取り組む意欲を高める。 ②毎日の挨拶や対話的な清掃指導、服装指導を行い生徒の自律を促す。 ③学校行事等の特別活動を通して、物事に主体的に臨む姿勢を育成し、社会性を高め、自立を促す。	

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和6年度 上市高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	生徒指導
重点課題	①基本的な生活習慣の確立 ②学校生活および社会生活への適応
現 状	①「基本的な生活習慣の自己管理」「身だしなみを整える」「公共のマナーを守る」等を指導重点として規律と秩序ある校風作りを進めている。 ②通学駅や玄関前での挨拶や服装指導を行っているが、コミュニケーションをとることが苦手な生徒や制服を着崩している生徒が見られる。 ③SNSに起因した人間関係トラブルが増加傾向にある。意識啓発に努めるとともに、適切な指導を早期に行っていく必要がある。
達成目標	①②年間の遅刻生徒回数の減少に向けて、生徒の意識改善を促す指導の充実 ③携帯電話の使用ルールなど違反者（ルール違反・ネットパトロールによる指導）の指導件数の減少 ①②前年比10%の減少 ③前年比10%の減少
方 策	①②遅刻回数が多い生徒には、5分前に着席完了できるように生徒の自己管理と意識改善を促す。毎朝、玄関前指導を通じて挨拶を交わしながら生徒とのコミュニケーションをとる。さらに、進路指導と絡めて、社会人としての在り方を考えさせ、生徒主体の指導体制を工夫し、生徒の内面的な成長を促す。 ③生徒理解と家庭との連携に努めている。教育相談の充実や教職員間の共通理解と連携強化がさらに必要である。生徒がいじめ等のトラブルや犯罪に巻き込まれないようにするとともに、学習への悪影響を防ぐため、生徒・保護者の意識の改善を図る。

令和6年度 上市高等学校アクションプラン - 2 -			
重点項目	教科指導		
重点課題	基礎学力の定着に向けた教科指導等の改善		
現 状	昨年度、「学び直し」として義務教育段階の学習内容をタブレットで自学自習する時間「リスタ」を1・2年生で週に1度（50分）、2学期まで実施し、以下の結果を得た。 ・学び直しに「やりがい」を感じた生徒の割合が1年生は59.5%、2年生は34.0%だった。 ・基礎力診断テストを実施しない学年があり、客観的なデータを検討する機会がなかった。 ・進学や就職で困難な状況が予想される成績区分D3の生徒に対して、教員が自作プリントを作成し、声をかけながら取り組ませた結果、粘り強く課題に取り組む生徒や褒められて喜ぶ生徒の様子が見られた。 ・本校の生徒に必要な「社会人基礎力」を各教科で検討し、それらを授業で指導する方向性とした。 昨年度までの取り組みをふまえ、今年度はタブレットを使用した自学自習の「リスタ」を廃止し、授業の中で「学び直し」を実施することや全学年で基礎力診断テストを実施することとした。		
達成目標	①「学び直し」に対する意識の向上	②基礎力診断テストの結果の検討	③授業における「学び直し」の定着
	・学び直しに「やりがい」や充実感を感じる生徒の割合を60%以上にする。	・基礎力診断テストの結果を教育課程委員会や職員会議で検討し、授業改善につなげるD3の生徒を減少させる。	・各教科で指定した授業の年間指導計画に「学び直し」を明確に位置づけ、学び直しの効果としてGTZがAからCまでの生徒数が増加するようにする。
方 策	・「学び直し」の内容や進捗についてアンケートを実施し、生徒に「学び直し」の意義を意識させる。 ・授業中に単元テスト等を実施し、生徒が分かる喜びやできる喜びを感じられるようにする。	・進路指導部と協力し、基礎力診断テストの結果を各会議に提出する。 ・義務教育範囲の得点率の変化やD3の生徒の割合を全教員が把握できるように情報提供する。	・「学び直し」講座の年間指導計画に、義務教育範囲の学習内容とその実施時期を設定し、提出してもらう。 ・実施状況を各教科会議で検討する。 ・本校の生徒に必要な「社会人基礎力」について検討する。

令和6年度 上市高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路指導		
重点課題	生徒の職業観を早期に育て主体的に進路先を探していくための情報提供と進路指導		
現 状	<p>①進路目標の設定が遅れる生徒はしっかりとした職業観を育てていく必要がある。</p> <p>②県内外進路研修、インターンシップなど多くの進路学習が行われているが、生徒は受動的であり、個々の活動を系統的に生かし、進路意識を高めていくことが必要である。</p>		
達成目標	<p>1 学年</p> <p>①進路研究を深めるため、県内を中心とした体験的行事に積極的に参加させる。</p> <p>②県内等の体験的行事に年2回以上参加した生徒の割合が30%以上</p>	<p>2 学年</p> <p>就職希望者のうち、インターンシップに参加する生徒の割合100%</p>	<p>3 学年</p> <p>第一希望の進学合格率と就職内定率90%以上</p>
方 策	<p>①-1 上市高校キャリア教育プログラムの「職業を知る会」「職場見学」「インターンシップ」に多くの生徒が参加することで、早期に職業に触れ、職業観を育成していく。</p> <p>①-2 北陸の大学や医療系の学校の入試難化や、学校推薦型選抜を含め多様化が進む入試システムに対応し、入試関係の情報を随時、生徒・保護者に提供する。</p> <p>②-1 新型コロナウイルス感染の沈静化で景気が上向きつつあるものの、求人動向が上向きには時間がかかる。生徒の求職活動を十分に支援するために、企業の採用情報を的確につかみ、情報提供に努める。</p> <p>②-2 オープンキャンパスや各種施設見学など、体験的な学習への参加を生徒に勧め、受験への意欲付けや就職後のギャップを減らす。</p> <p>②-3 教職員の進路研修の一環として、主に進学実績のある大学・短大等の学校説明会や入試説明会への参加を勧める。</p>		

令和6年度 上市高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動	
重点課題	ボランティア活動、異年齢交流や部活動を通しての学校生活の充実	
現 状	<p>①校内外の行事に対して生徒会執行部は活発だが、一般生徒の意識はそれほど高くない。令和5年度のボランティアサポーター登録数84名で、学校で把握しているボランティア活動に参加した者は延べ人数123名であった。また、希望しても無断で欠席するなど活動意欲が不十分な生徒も見受けられる。</p> <p>②昨年度より新入生の活動を希望制とすることで、意欲的な部活動を行いやすい環境を整えた。しかし、それでも部登録はしているが活動していない生徒や、安易に退部する生徒も多く見られた。継続して部活動を続けている生徒は、全体の71.8%である。令和5年度は全学年平均68.0%の生徒がやりがいを感じて最後まで継続して部活動に取り組みたいと答えている。</p>	
達成目標	<p>①ボランティア等の校外活動の参加数 延べ人数 150名以上</p>	<p>②部活動にやりがいを感じて最後まで継続したい生徒の割合 80%以上 (12月にアンケート実施)</p>
方 策	<p>①生徒会及び各種委員会と連携を図りながら、活動の輪をひろげる。また、地域交流や校内外でのボランティア活動、クリーン活動、家庭クラブ活動に対する広報活動を促進し、主体的に参加することへの意欲を高める。</p>	<p>②新入生の部活動参加を希望制とすることで意欲のある者の活動を旨とする。部活動の必要性や魅力を理解させ、体力や技術、意識の向上とともに人間的な成長と個性の伸長を実感させ、学校生活の充実を図る。また、部長会議を前期後期各2回以上実施し、状況把握を行うとともに、必要な対策を行う。</p>

【参考】令和6年度重点事項

(1) 基本的な生活習慣の確立

将来の社会生活の基盤となる「挨拶」「服装」「整頓」「話を聴く力」の確実な定着を図る。

(2) キャリア教育の充実

上市町内の企業・事業所と連携して上市高校キャリア教育プログラムに取り組み充実させる。

(職業を知る会、職場見学、インターンシップ)

①「職業を知る会」には保護者の参加してもらい家庭における進路意識の充実を図る。

②「キャリアバイト」を実施し生徒に働くことの意義について考える機会とする。

(3) 地域交流活動の推進

①各分野の特色を活かし地域との交流活動を進め生徒の成功体験を積み重ねる。

②生徒自ら企画運営できる機会をつくる。

③ボランティア活動を活性化させ、地域の人々とともに地域に貢献する姿勢を育む。

(4) 基礎学力の定着

①学び直しを各教科の年間指導計画に位置づけ、学力伸長について基礎力診断テストを用いて定点観測し分析する。分析結果を基に学び直しの方法について検討する。

②タブレットを用いて生徒の個別学習をすすめたり、空き教室を利用した検定指導や四年制大学受験者指導の仕組みを作ったりして自ら学ぶ姿勢を育む。

③授業の中でデジタル教科書や電子白板などのアプリ運用の導入を進める。

キャリア教育の流れ

